

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒190-0013
東京都立川市富士見町 2-12-13 安藤ビルB 1 F
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU !

2 0 1 2 年（平成 2 4 年）8 月 16 日 木 曜 日

無料

第 3 号

毎月発行

創刊 2012 年（平成 24 年）8 月 16 日木曜日

特集

東北－東京オリンピック
2020 開催の提案

「東北－東京オリンピック
2020」への名称
変更を希望する理由

なぜ、これまで、東北大震災からの復興という大命題と、「東北－東京オリンピック」開催を強力に連結し、復興に大きく弾みをつけ、東北に元氣を取り戻し、同時に行き詰った日本経済の活性化を解決していこうという発想がどうして出て来なかったのだろうか。なぜ、このような、どうしようもなく硬直した発想の国になってしまったのだろうかと思う。これでは日本も、東北被災地も破滅と没落への一直線を進むしかないではないかと思うのだ。他の国には出来ないことでも日本ならばできるはずなのに、国全体の判断機能が凍結しているように見えて仕方がない。

いまからでも遅くはない。「東京オリンピック 2020」ではなく、「東北－東京オリンピック」開催に向けて、国内世論を盛り上げ、政治と行政を動かしていこうではないかというのが提案の骨子である。そのためには、現状についての正しい認識が不可欠である。大震災からの復興は進んでいないのだ。一部で言われるような復興ミニバブルなど蜃気楼にすぎない。それどころか、沿岸部被災地では、これから来る二年間の震災猶予期間の終了に伴い、あらゆる支援措置がはずされ、被災者はいよいよ、大震災がもたらした甚大被害の現実と直面する場面が近づいているのだ。二年間という時間差の直面なのである。これをあまり大きく取り上げて、被災者がこれからきびしい現実のなかで生きていこうという前向きな気持ちを傷つけたくはないが、「第二の震災」が被災地に近づいていることは間違いないのだ。だから、早くこの「東北－東京オリンピック」という大プロジェクトに路線を大転換して、被災地を救済して欲しいのである。

このプロジェクトは、単なるオリンピックの名称変更にとどまらず、遠隔地同時開催であり、復興も同時に解決するプランである。最高のチャンスであり、東北被災地だけでなく、沈みきった日本の再浮上も同時に達成できる、日本にしかできないプランでもある。

ぜひ国民の活発な議論を期待したいと思う。

謹啓 東京都知事 兼
東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会
評議会 会長 石原慎太郎 さま

「東北－東京オリンピック」への変更に関するお願い

謹啓 残暑の候、都知事に置かれましてはますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。

さて、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会によるオリンピック招致活動が功を奏し、二〇二〇年に開催されるオリンピックの候補地として一次選考を通過された由、まことにおめでとうございます。前回の二〇一六年のオリンピック開催地最終選考では敗れ、ブラジルのリオデジャネイロに決定したわけですが、二大会連続して一次選考を通過した形になり、この点では非常に有利な状況にあると言えると思います。

周知のように、二〇二〇年の開催地候補は、東京の他には、スペインのマドリッド、トルコのイスタンブールの二都市が残りました。うち、スペインは経済状況の悪化が懸念されています。また、トルコは同じ二〇二〇年のサッカー欧州選手権にも立候補していて、同じ年に大きな大会を複数招致することに対する批判が大きいという声もあると聞いております。さらに東京は東日本大震災復興のシンボルということもあり、やや有利ではないかと見られているようです。

しかしながら、最終選考の来年九月までにはまだ時間があり、この間に予想もしないようなさまざまなことが起きて、この有利な状況があつという間に変化することも考えておかなければなりません。最悪の場合には二回連続の落選になる可能性も否定できません。念には念を入れ、あらゆる事態に対処し、招致をより確実なものにする必要があると考えます。さらに他の二都市が「戦意」を喪失するような圧倒的に有利な状況を作ること必要だと考えます。

この点に関しましては、かねてより当新聞は、以下に申し上げるような、東京開催の強力な支援材料を検討してまいりました。その材料をご採用いただきました折には、二〇二〇年のオリンピック開催はほぼ決定といえる状況になると考えておりますし、また国内世論はまず間違いなく盛り上がり、オリンピック招致への無関心状態から一転、より積極的な応援姿勢に転換することが期待できると考えております。さらには、世界からも間違いなく圧倒的な支持がもたらされるであろうとも考えております。

また、この提案は、二〇一一年に発生した東日本大震災からの復興にも大きく貢献する提案でございます。大震災から一年半も経過しようとしておりますが、一向に復興が進展しておりません。この遅れを一挙に取り戻し、むしろ拍車をかける提案だと自負しております。もし、当提案をご採用いただき、東北復興迅速化に目に見える効果があれば、都知事は、関東大震災時の後藤新平以上の東日本大震災復興貢献者となり、歴史にそのお名前を残されることになるでしょう。そして、東北のヒーロー、救世主となれることと思ひます。

昨年の時点では、オリンピックの東北一部開催を組み込んだ招致委員会の企画に対し、大震災という惨劇を招致に利用するなといった一見正論にも聞こえるような反対論も出たと聞いております。が、今はもうそうした反対論は根拠をまったく失い、積極支持が圧倒的だと思います。この一年半で状況は変わりました。東北復興は、待ったなしの切羽詰った状況にあります。一部マスメディアが言うような復興ミニバブルなど虚像であり、復興の将来ビジョンも描けず、足元の復旧さえ進まず、何とも言いようのないストレス状態に置かれているというのが実態であります。さらに、甚大な被害を受けた沿岸部や放射能汚染地域及びその隣接地元産業の立ち上がりの遅れ、復興事業の大幅遅れ、人口流出、また二年の復興支援のための猶予期限切れによる生活費負担増加が目前に迫っております。あの震災を第一の震災とするならば、今度被災地を襲うであろうきびしい状況は、「第二の震災」とも言うべき規模であり、被災地はその影におびえています。ぜひ、東北被災地を救済するために、当提案をご採用いただきたく、かきねてお願い申し上げます。

最後に、東京電力福島第一原発による放射能汚染問題があります。この問題を避けたオリンピック招致はありえないと思ひます。いまの行政対応のまま推移すれば、間違いなく福島島の汚染地区は大きな進展もないまま放置されていることでしょう。2020東京オリンピックが開催される東京からわずか二〇〇キロちょっとしか離れていない汚染地区を抱えたままのオリンピック開催という構図は何とも表現のしようがないものとなります。来年の最終選考で東京が選ばれた場合、この問題が一挙にクローズアップされる可能性も否定できません。あるいは最終選考の前に、この問題を取り上げて東京を追いつ落とそうという流れが出て来ないとも限りません。2020東京オリンピックが国内外の賞賛を受けるためにも、またあの震災からの奇跡の復興を記念すべき大会にするためにも、汚染問題にも切り込んでいくべきだと考えます。東京は、この放射能汚染問題とは非常に深い関係があります。ぜひ招致活動とともに放射能汚染問題にも積極的に取り組みたいと思ひます。この問題が前進することは、福島だけでなく、東北、ひいては日本全体の再浮上の契機となることまちがいありません。

以上、当新聞の提案の根拠を述べさせていただきましたが、何卒、当提案をあらゆる観点からご検討のうえ、ご採用賜りますようお願い申し上げます。敬白

記

一、オリンピック名称変更
「東京2020オリンピック」から
「東北－東京2020オリンピック」に変更する

二、開催形態

東京を「主開催地」とし、東北各県を「従開催地」とする遠隔地共同開催方式
東北地区での開催競技は、巨大な新規建造物の不要な競技を対象とする

三、特記事項

- ①開会式と閉会式も同時二元開催とする
- ②放射能、災害などに関して、世界一のリスク管理が行き届いた大会というコンセプトを採用する
- ③「大震災からの奇跡の復興」もコンセプトに盛り込む
- ④オリンピック開催までに、東北被災地のインフラ整備を優先させる
- ⑤東北開催のための諸費用捻出を目的とした「東北被災地でのオリンピック開催への寄付を募る方式」を採用する

以上

東北六県知事殿
東北選出の国会議員殿
東北の市町村長殿
東北六県の県議会議員殿
東北の市町村議会議員殿

東北の未来と運命
を担う政治家の皆様
さんへ

未曾有の東北大震災に遭遇した東北の未来展望について、政治家のみなさんがどうにもならないとあきらめたならば、もうどうしようもない。また、あきらめないまでも、いまの状況のまままで事態を大きく打開できないと思ったら、これまでもうしようもない。出来ることはしている、努力はしていると言われても、現実が伴わなければ、評価のしようがない。進むべき道のまんなかにどつかりと居座った巨大な岩をどけようと精一杯押してはいるが動かないのだと言われてもどうしようもないのです。

言うまでもなく、政治家というお仕事は、努力の大きさを評価される仕事ではなく、結果がすべてのお仕事です。きびしいかもしれないが、結果が出ないのであれば言い訳は止めて欲しい。そんな言い訳など聞きたくもない。東北各県の県民も、市民も、町民も、村民も、努力ではなく、結果

を求めて投票したことを忘れないで欲しいと思います。

◇

さて、そこで、当新聞からの提案です。東北大震災からの復興を、迅速かつ効率的に、あまりお金をかけず、かつ国民の圧倒的な支持の元で可能だという提案であります。そんな夢のようなプランがあるとしたら、勇気ある政治家諸氏のことでありますから、多少の困難はものともせず、挑戦していただけることだろうと思います。

もう少し詳しくご説明すると、「東北ー東京オリンピック2020」構想においては、復興事業とオリンピック招致のためのインフラ工事をうまく調整していくことがあります。国の威信をかけた招致でありますから、是が非でも実現することでしょう。同時に復興事業も推進できるのです。

さらに、東北での開催となれば、放射能汚染問題を無視することは出来ません。この問題もいまのままで進展しません。オリンピック招致を契機として、事

態を打開することができません。いや、どういしても進まなければならなりません。そして、このプラン実現の折には、東北は日本の東北から、世界の東北に飛躍できます。

それが、この「東北ー東京オリンピック2020」の構想です。周知のように、いま東京が「東京オリンピック2020」の招致に向けて、一次選考を通り、来年九月の最終選考に望もうとしています。たった一年という短い期間ではあり、幾多の困難もあるでしょうが、挑戦するに値するプランではありませんか。構想の骨格としては、オリンピックの名称変更を実現し、東京と東北の同時開催を企画するということであります。大震災で痛んだインフラ整備もあり、東北でのオリンピック招致準備も同時に行うなど無理だという声が聞こえて来そうであります。

しかし、いま大震災後のきびしい状況を一気に打破して、慢性的に落ち込み続ける東北経済を立て直し、大震災発生以前よりも活性化した東北を実現するプランが他にあるでしょうか。あるというのなら、当提案は潔く取り下げます。しかし、他にないとしたら、ぜひいますぐ検討に入ってくださいたい。そして東京と連携して、招致活動に積極的に参画していただきたい。時間が限られています。

東北は観光立国を目指す

東北大震災で東北の観光産業は大きく落ち込んだままである。なかでも落ち込みがひどいのは、震災の被害が大きかった沿岸部、そして福島である。回復するには何か大きな仕掛けが必要である。それが「東北ー東京オリンピック2020」になれば良いと心から思う。

オリンピック開催のメリットは、経済効果であり、そのうちで最も大きい効果は観光事業である。日経新聞によれば、いま開催中のロンドンオリンピックの開催前試算では、全体の経済効果が六七〇億円、うち直接的な観光関連収入が六五％、観客のホテル利用やレストラン利用などで二〇％、マスコット人形や大会グッズで五％、これらを合計すると実に全体の九〇％、金額にして六〇〇億円以上である。ロンドン市内のホテルでは、開催中の値上がりを見込んで、事前に大幅な値上げをしたために、閑散としているという話も一部にあるが、あまり欲張らなければ、自然に収入に結びつくはずだ。

これが、「東京オリンピック2020」が実現したとすると、経済効果はロンドンよりはるかに大きく、東京都試算では三兆円ということである。単純計算をすれば、このうち九〇％が何らかの観光収入とすれば、実に二、七兆円という金額になる。もし「東北ー東京オリンピック2020」が実現したとすれば、最低でも1／10程度は東北に効果が出るとして、二七〇〇億円である。自然体でもそうであれば、この機会に東北全体で「観光立国・東北」を目指せば、1／10が、1／5になり、1／3にもなりうる。いまは単なる皮算用であるが、ぜひ現実にしたいたいものだ。

東北の観光産業は、もともと活性化できる余地があると思う。東北は自分たちが保有している資産にあまり頓着しないところがある。もう少しそうした資産の掘り起こしに努力すれば良いと思う。二〇二〇年までにはまだ八年という時間がある。それまでに観光事業を強化し、より大きな経済効果を引き出し、観光産業の裾野拡大、雇用創出、関連産業の起業や既存企業の拡大も目指そうではないか。それは十分に期待できると思う。そうならば、農業・水産業がメインの東北に、観光という新たな産業の柱が出来る可能性がある。

また、そうならば、経済効果は、オリンピック開催期間中だけではない。日本の東北から、世界の東北に脱皮し、積極的に観光地として売り出していけば、恒常的な収入が期待できる。そして何より、東北には多くの観光資源があることを忘れてはならない。さまざまな自然であり、観光地であり、農業分野・水産業分野の多様な食材である。東北の暖かいもてなしもある。これを組み合わせ、世界に例のない観光事業を創出することに挑戦しようではないか。

このプランを進めていけば、観光産業の拡大で、従来の課題であった少子高齢化、過疎化という根本的な課題にも光明が見えてくる。良いことだらけである。やらない手はない。

ネットアンケートにご協力ください

「東北ー東京オリンピック2020」開催についてのネットアンケート調査

にご協力ください。簡単な質問で、短時間で回答可能です。ぜひご協力を

お願いいたします。入力画面は、電子版TOPページにあります。

【Tiny Log】
用途ご自由のまるいケース
革は薄めの柔らかなものを使用
サイズ:70mm(縦)×70mm(横)重量:40g
価格:¥3,500(税込み)
⇒ **¥2,800(税込み)**

【Tiny Dice】
用途ご自由の四角いケース
革は薄めの柔らかなものを使用
サイズ:70mm(縦)×70mm(横)重量:40g
価格:3,500円(税込み)
⇒ **¥2,800(税込み)**

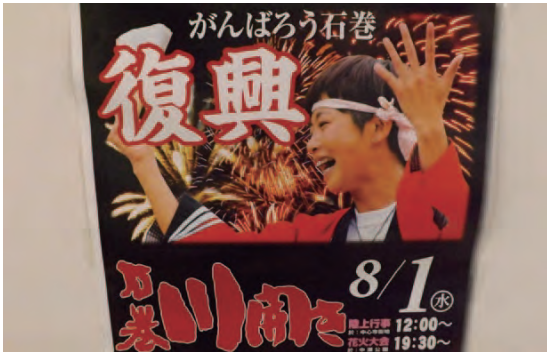
☆革物屋☆
かわもんや
<http://prewords.jp/>
E-Mail: contact@prewords.jp
TEL/FAX: 042(562)3507

Prewords

新聞創刊
ディスカウント
(20% OFF)

※カラー展開はそれぞれ5色
オレンジ: 鮮やかな橙色、使い込んだ後の渋みが楽しみ
キャメル: 5色の中で最もヴィンテージ感のある色合い
ブラック: スタンダードな黒、ビジネスにもプライベートにも
ワインレッド: 落ち着いた大人の赤
グリーン: 深みのある優しい緑

【Handy Pouch】
モバイル機器収納など、用途は自由自在
革は薄めのやわらかいものを使用
手触り感を重視
サイズ:105mm(縦)×210mm(横)×60mm(奥行)
価格:7,800(税込み) ⇒ **¥6,240(税込み)**



石巻川開きポスター

復興を祈り、約五千発の花火が打ち上げられた。最も多くの花火が打ち上げられた年は一万五千発というから、規模はまだ1／3に回復したにすぎない。しかし、昨年に続いての花火の打ち上げを、このまちの人たちはずっと待ち望んでいた。まだ津波の傷跡がまちのあちこ



震災犠牲者供養祭

最大の津波犠牲者を出した宮城県石巻市の「川開き祭り」の花火大会が八月一日に開催された。花火大会に先立ち、犠牲者の供養祭はその前日に行われている。（写真）

当日は、犠牲者

への供養と震災から

の復興を祈り、約

五千発の花火が打ち

上げられた。最も多

くの花火が打ち上げ

られた年は一万五千

発というから、規模

はまだ1／3に回復

したにすぎない。し

かし、昨年に続いて

の花火の打ち上げ

を、このまちの人た

ちはずっと待ち望ん

でいた。まだ津波の

傷跡がまちのあちこ

石巻川開き祭

ちに残り、復旧もままならないような状況の中での花火大会である。なかなか進展しない復興と、大きな震災ダメージから回復できない地域経済により、日頃は明るい表情だけではないはずだ。が、この日はそうした憂さも忘れ、みな晴れやかだった。

しかも人出もすごかった。打ち上げ開始の一時間前には、花火が最もよく見える場所の近くにはたくさんの観衆が集まり、身動きもとれないほどで、特に若い人が多かった。この先長い期間を要する復興にとって若い力は心強い。その若人がたくさん参加した。

たまたま、筆者の隣で

花火を見ていたのが、石巻

魚市場の須能邦雄社長だっ

た。花火を見ながらの突然

の取材に切り替えとなっ

た。

その中で氏は、石

巻は必ず復興する、地

元の力も当然だが、外

部からの支援・応援も

非常に大切であるとい

うことを力説された。

氏は水戸のご出身とい

うことで、何度か水戸

に向いて震災体験を

語られてもいる。内に

こもらず、常に外部と

の連係を積極的に働き

かけていく姿勢に石巻

は学ぶべきであると思

う。最後に氏は、石巻

東北のメジャーな夏祭

りは八月初めに集中して

いる。青森はねぶた祭、秋

田は竿灯祭り、岩手は盛

岡さんさ踊り、宮城は仙

台七夕、山形は花笠踊り、

福島はわらじ祭りなど

ある。これらの祭りには、

今年、合計すれば、数百万

人以上の人があったはず

だ。震災発生から一年

半近く経過したとはいえ、

被害はまだ完全には回復

していないだろうから、主

催者側の苦労も大変だっ

たに違いない。

他方、東北の夏祭りはこ

れらのメジャーな夏祭り

だけではない。各地域で

開催される多くの夏祭り

がある。また夏に限らず、

秋も冬も春にも祭りはあ

る。

◇

昨年の東北大震災によ

って多くの町が被災し、数

百年続いてきた夏祭りが

開催できないとか、夏祭り

に限らず、祭りの存続が危

ういという地域も多々あ

るようだ。特に津波被害の

大きかった沿岸部である。

祭りの担い手が犠牲にな

ったとか、多くの住民が

被災したとか、その地域

が壊滅的な被害にあつて、

祭りに用いる祭礼道具も

津波で流された、あるいは

大半が壊れてしまったとい

うような地域では、とて

も夏祭りどころではない

という声上がるのが当然

である。しかし一方で、

震災で亡くなった家族や

友人の霊を弔いたい、散り

散りになった住民を呼び

戻し、祭りを通してもう

一度地域の絆を取り戻し

たいと、あえて開催に踏

み切る地域も多いと聞く。

あるいは、数百年続いた祭

りをこの震災で途絶えさ

せてはならないと奮起し、

継続を決めたところもあ

るだろう。

そんな各地域の祭りや

伝統芸能をこれから取上

げ、そこにもメジャーな夏

祭りに劣らぬドラマがある

ことを伝えていきたい。



石巻魚市場の須能社長と筆者



屋台には長蛇の列

渋谷区 震災復興支援イベント 宮城県伝統文化（7/27、28、29 開催）

崎浜大漁唄込保存会（気仙沼）
石巻日高見太鼓（石巻）
小牛田和太鼓 江鳴会（小牛田）

渋谷区主催で、七月二七日から三日間、震災復興支援イベントとして、三つの宮城県の伝統芸能が渋谷・ハチ公前広場で披露された。気仙沼の「崎浜大漁唄込保存会」の大漁唄い込み、石巻の「石巻日高見太鼓」と小牛田の「小牛田和太鼓 江鳴会」の三芸能である。当日は大変な暑さであったが、それを吹き飛ば



崎浜大漁唄込保存会



石巻日高見太鼓



小牛田和太鼓 江鳴会

す勢いがあつた。

渋谷のスクランブル交差点を歩く人々も、演奏が始まるや、威勢の良い唄や太鼓演奏を見ようと、ものすごい人だかりとなった。

特に、「崎浜大漁唄込保存会」は三〇〇年以上の歴史を持ちつつも、今度の震災で会の存続も危ぶまれた。しかし、「震災復興応援歌」としての意義を噛みしめて再出発したという。

その演奏は、船を漕ぐときに用いる櫓を大勢で板に打ち付けるというまことにシンフルな伴奏を背景にした、海の男たちのまことに力強い唄である。まさしく復興への応援歌として、被災地や被災者に勇気を与えてくれる。ぜひ、動画でその演奏を聞いていただきたい。

「石巻日高見太鼓」は、最大

の津波犠牲者を出した

石巻市の太鼓グループであ

る。石巻の海・山・河をテ

ーマにした演奏を行うとこ

ろに特徴がある。また、四

歳の子供も参加するグルー

プであり、ほほえましい。

しかし、演奏は力強く勇壮

であり、震災からの復興への

想いを存分に表現してい

た。

「小牛田和太鼓 江鳴

会」は、若い女性が多い太

鼓グループであるが、男性

をしのぐようなパワフルな

演奏であった。同時にキレ

のある歯切れの良い太鼓の

リズムが印象に残った。こ

のグループは、地域の祭礼

に積極的に参加し、地域の

絆づくりに貢献している

という。

これら二つの太鼓演奏

も、ぜひ動画で鑑賞してい

ただきたい。

これら三つの芸能は、

地域のためにみんなが力を

合わせて行こうという「結

いの心」が共通している。

こうした芸能を共有するこ

とで、一日も早く地域の力

と元氣を取り戻して欲しい

と願うばかりである。

動画紹介

- 崎浜大漁唄込保存会（気仙沼市）
<http://www.youtube.com/watch?v=SeHCgDbouOc>
- 石巻日高見太鼓（石巻市）
<http://www.youtube.com/watch?v=s8pDwISTcSQ>
- 小牛田和太鼓江鳴会（美里町）
http://www.youtube.com/watch?v=s7asx_kzqsk

スコットランド と 東北

映画『ブレイブハート』 と東北の英雄・アテル イについて思う

たまたま最近、スコットランドの話、スコットランド独立の英雄・ウィリアム・ウォレスの話題が筆者の周辺で頻繁に出現した。単なる偶然にしては多すぎる。きつと何かの縁があるのだろうと思うことにして、早速、一九九五年に封切られた映画『ブレイブハート』をDVDで見ることにした。

メル・ギブソン監督・主演、アカデミー賞五部門も受賞した映画だから、話題にもなったし、ご覧になったことがある方も多いことだろう。史実とは異なる部分が多々あり、歴史映画というよりフィクションという位置づけのようだが、最初からスコットランドに肩入れしている筆者としてはとにかく面白かった。DVDを見ている三時間があつという間だった。

映画のはじめに出てくる森や山の風景はどこかしら東北の北上山地に似ている。そして美しい。ここにしみ込んでくる。自然の遺産とはまさにこのことだと感じた。東北出身の筆者にとっては、とても懐かし

い感じがする風景である。結果、ぐいぐいと画面に引き込まれることになった。

スコットランドと 東北の共通点

スコットランドも、東北も、同じ島国であるイギリスと日本の北部に位置する。気候は寒く、長年貧しい暮らしを余儀なくされてきた。また古くから、中央政権からの侵略、搾取にあ

えて来た歴史も同じ。それでも、あまりの搾取と弾圧に怒り、立ち上がり、民族の誇りをかけた戦いに挑むが、結果的に負け続けてきた歴史も共通だ。さらに、負けても負けても再び立ち上がるというのも共通している。

スコットランドの独立の英雄は、この映画『ブレイブハート』の主人公のウィリアム・ウォレスであり、一三世紀から一四世紀はじめに活躍した。一方、「東北独立」の英雄・アテルイは、もう少し時代が遡り、八世紀末から九世紀はじめにかけて活躍した。

予断であるが、この『ブレイブハート』の主人公、ウィリアム・ウォレスが処刑されたのが、一三〇五年の八月二三日であり、東北の英雄・アテルイが処刑されたのが、八〇二年九月一七日で、年代は異なるが、暦は近い。

そして、このウィリアム・ウォレスとアテルイに共通

しているのはそれだけでない。度重なる中央からの圧制に対して武装蜂起して、ゲリラ戦など奇抜な戦術を用いて、圧倒的な中央政権の武力に対して一旦は大勝利を収めるが、その勢いはいつまでも続かず、いつしか衰え、最後は捕らえられ、処刑されるというところまで同じである。

スコットランドでの ウィリアム・ウォレ スの人気

アテルイは、西暦八〇二年に処刑された。その年からちょうど二二〇〇年後の二〇〇二年には、あちこちで没後二二〇〇年イベントが開催された。長編アニメも出来たし、ミュージカルも演劇も上演されている。

でも、東北でものすごい人気かといえは、そこまで

は行かない。没後二二〇〇年を迎える前の一九九〇年代にアテルイを題材にした創作活動があちこちで起きたが、それ以前はあまり知られていない。また没後一二〇〇年イベントが終わると、注目度も一気に下がってしまったのではないかとも思える。さびしい限りである。

他方、ウィリアム・ウォレス人気は、この映画のおかげもあつたのか、依然として衰えないという。

それどころか、この映画が封切られた一九九五

年という時期は、ちよ

うスコットランドのイギリスからの独立活動が活発化した時期であり、それにも影響を与えたという見方も一部にあるようだ。さらに一九九七年の総選挙においては、この映画の影響で、スコットランド人の民族主義を重視するスコットランド国民党（Scottish National Party、あるいはスコットランド民族党とも訳されている）が、議席数を倍増させたという見方もある。また、スコットランド出身の当時の首相・トニー・ブレアの後押しもあつて、「スコットランド自治政府」はその自治権を大きく拡大した。

このように、影響は単に映画のなかにとどまらず、現実の政治まで動かしただという見方があるほど影響力があつたといえる。

東北には自主独立の 気運は消えたのか

他方、わが東北にはそうした動きはいまはない。東北が一体化した政治的活動もほとんど見られない。あつたとしてもすぐ尻すぼみするケースが多い。国内の他の地域では、道州制の導入論議や地方主権拡大、広域連合論議、はたまた独立意志表明までとにぎやかだが、東北ではほぼゼロである。他地域からすると東北は、道州制や地方主権問題

にとても消極的な地域との

評価がもつぱらである。こうした地域の主権をめぐる動きに対する「無反応状態」はいつたいどうしたというのだろうか。ナゾである。

戊辰戦争敗戦からまだ一五〇年も経過していないので、まだその傷が癒えていないからなのだろうか。戊辰敗戦以降、明治維新にかけて、奥羽越列藩同盟に積極的に参画した各藩への仕置きがありにすぎくて、それ

にまだおびえているからだろうか。あるいは、奥羽越列藩同盟は、戊辰戦争の途中から各藩の寝返り、裏切り、傍観への方向転換が続いて敗戦となったが、東北はいまだにそのことにこだわら続けて、東北統一の機運が盛り上がり

ていないのだろうか。それとも、長い時間をかけてズルズルと押し切られてきた結果出来上がった慢性的

な差別や搾取状態に慣れ

てしまつて、怒ることを忘れてしまつたのだろうか。アテルイの時代とは一二〇〇年も離れていて、状況が異なるから、そうした動きにはならないというのだろうか。はたまた、スコットランドは特別であり、東北とは異なるのだから、同じには論じられないと言ひ訳するのだろうか。

この大震災が、東京や大阪などの大都市で起きても同じような対応をしたのだろうか。東北だからこうした仕打ちをされていると思ひたくはないが、それは単なる思い込みと言ひ切れるのだろうか。

東北の誇りについて

今般の東北大震災（あえて東北と名づける）の直後の政府や行政のあまりの遅い対応や、ふがいない対応に怒らないのはなぜだろうか。怒ってはいいるのだが、個々人レベルにとどまつているから、表面に出て来ないだけだろうか。

復興庁は被災地現地に作るべきだという声を無視して、中央に留め置かれたま

ニバブルが起きていて、も

う支援の手は必要ないような雰囲気をかもし出されても、それは違つとなぜ抗弁しないのだろうか。

この大震災が、東京や大阪などの大都市で起きても同じような対応をしたのだろうか。東北だからこうした仕打ちをされていると思ひたくはないが、それは単なる思い込みと言ひ切れるのだろうか。

かつて、アテルイの時代も、それ以降も、東北は自ら進んで他地域を攻撃することはなく、平和を愛することは歴史が証明している。しかし、圧制や搾取がひどく、東北の誇りが傷つけられたら立ち上がる勇氣は持つていたはずだ。いまはどうだろうか。東北の誇りはいまも健在だろうか。

スコットランドを 通して東北を考える 視点

これから本腰を入れて未

来の東北を考えなければならぬ。そのときには、過去の成功体験にしがみつ

き、硬直しきつた日本、行き詰つた日本、沈み行く巨大タンカーのような日本の枠内でだけで東北のことを考えることを止めようではないか。もつと広い、別の次元で考えるのはどうだろうか。硬直した発想の中をどれだけひつかり回しても、いまの事態を根本的に



スコットランドの風景

その結果、二重・三重行政で従前よりもさらに非効率になつても怒らないのはなぜだろうか。沿岸部被災地では、まだ復旧もままならないというのに、復興ミ

打開できるアイデアはけつして出て来ない。ムダなエネルギーを費やさず、有効な手法に切り替えれば良いだけのことだ。深刻な顔をして考えることはない。出口は簡単に見つかる可能性が高い。

そうした発想転換、方向転換にまさに最適と思ひるのはスコットランドとの比較である。

同じような歴史を持ち、同じような地理的位置、中央との関係も長い物差しで見れば、似たようなものだ。最近の動向に違いが出ただけと考えれば良い。スコットランドの方がどうやら自治権獲得では数段先行しているようだから、それとの比較で考えると、東北の未来について、ひとつの答えが見つかる可能性が大きいといえる。

スコットランドに出来て、東北に出来ないことは基本的にないはずだ。最初から出来ないと思つことが、この硬直日本に毒されているせいだと思へば良い。

政治的な問題だけではない。最も学ぶべきは、民族アイデンティティー問題、文化的アイデンティティー問題である。どうやってアイデンティティーを保持してきたか。東北人というものを定義することはむずかしいとか、あるいは東北文化は一つではないという反論に対し、スコットランドではどう考えているかを学

べば良い。長い歴史を経

れば、純粋なスコットランド民族などいないだろう。複雑に混血しているだろう。大昔の、他民族との交流がほとんどない時代ではないのだ。さまざまな交流があり、異民族同士が婚姻し、遠い異国民同士でさえ混血している。そこで純粋な民族主義を唱える輩は現代には存在しないはずだ。

文化もそう。大昔から異文化同士の交流があつたはずだ。異文化と交流がなかった文化などあるはずがない。とはいえ、人間はそうした純粋な民族、文化に熱狂する生き物でもある。

新しい東北人、 東北文化

東北文化

このようにして、スコットランドから東北を考える、スコットランドと東北の比較から、東北を考えるという発想が生まれるだろう。そしてそこから「新たな東北人」、「新たな東北文化」が誕生する可能性がある。すでにあるものを発掘するだけが、アイデンティティー探索ではないと思うのだ。

東北のただで発想する時代ではない。せせこましい発想に終始するなら、いまの東北をいじくり回す必要はない。そうではなく、日本を飛び出すくらいの発想を求めるならば、ぜひこの新たなチャレンジに挑んでみようではないか。

東北の「国力」を知る

「東北」とはどこか

東北地方をデータで捉えた場合、どのような姿が浮き彫りになるのだろうか。今回は東北の「国力」を見てみたい。

その前に、東北地方と云った場合、どこからどこまでをその範囲とするかが問題となる。一般によく受け容れられているのは、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島のいわゆる「東北六県」を以て東北地方とする考え方である。一方、立法や行政、経済の面では、新潟を含めた七県を以て東北地方とする例も多くある。かつての「東北三法」や地方行政連絡会議法ではこれら七県を東北地方と位置付けている他、国土交通省の東北地方整備局の「東北圏広域地方計画」はやはり七県をその対象としている。東北に本社や拠点を持つ企業でつくる東北経済連合会も七

執筆者紹介

大友浩平

（おおともこうへい）

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>



大友浩平氏

Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo>

県が活動エリアであり、東北電力も七県を事業地域としている。ここではひとまず、六県を指す場合には「東北地方」、七県を指す場合には「東北圏」と使い分けをおきたい。

東北の秘められた実力

さて、その「東北圏」であるが、東北地方整備局のサイトではその概要について、「東北圏は、人口約一二〇万人、GDP四兆円と欧州の中規模諸国（オランダ、スイス、ベルギー等）とほぼ同程度の人口・経済規模を持ち、三〇万人以上の都市は仙台市以下六市あり、国際空港や主要外貿コンテナ取扱港湾もそれぞれ複数存在しているなど、自立圏域としてのポテンシャルを有しています。人流・物流・通信・居住地移動・進学行動・企業活動といった社会経済活動において結びつきがみられ、一つのまとまりを形成しています。また、周辺道県も含めた道県境を超える広域連携の取り組み実績も多くみられます」と説明されている。

国の出先機関がいみじくも指摘しているように、東北圏は「自立圏域としてのポテンシャルを有している」のである。「自立圏域」とは、「自分たちだけでやっていける地域」であるということに他ならない。その人口やGDPは欧州の中規模国に比肩しうる規模であるのである。こちらの「奥州」はあちらの「欧州」の国々と互角に渡り合える実力を秘めているというわけである。

まずこのことがこの地に住む我々にとってもあまり知られていないことではない。何となく、首都圏や東京圏、関西圏から見ると一歩引けを取る、遅れた地域であるかのような印象を持ちがちなのではないだろうか。肥大化した都市圏との比較はあまり意味のあることではない。日本の外に目を向けた方が、本当の姿が見えてくるようである。

合が高い。これはすなわち、他地域よりも国の財源に依存する度合いが大きいということである。このことによつて施策の自由度をより奪われている、と見ることもできる。税源移譲の問題が地方分権にとつて大きな課題であることは、ここからも読み取れる。

「自給自足」ができる東北
東北が大都市圏に比べて遅れているという印象を持ちがちな要因の一つは農業にあると言えるかもしれない。東北は産業に占める農業など第一次産業の割合が高いが、そもそもこの第一次産業という言い方も、経済発展につれて第一次産業から鉱工業などの第二次産業、そしてサービス業などの第三次産業へと産業がシフトしていくとするクラークの産業分類によるものである。この考えに従えば、農業の割合が高いというのは経済発展していないことの現れということになる。

もちろん、問題もある。例えば歳入構成比であるが、全国平均と比べ、東北地方は歳入に占める地方税の割合が低く（全国平均三二％、東北地方一九・三％）、逆に、地方交付税（全国平均二〇・〇％、東北地方二十九・〇％）と国庫支出金（全国平均一五・七％、東北地方一七・九％）の占める割合

なかなか進展が見られないのが現状である。

宮城大学副学長の大泉一貫氏は「農業において『余つたら輸出』というのが世界の常識だが、『余つたら生産調整』が日本の常識」と言う。まさにその通りである。氏の主張で最も同意できるのは、「東北は食料供給地域ではない」というものである。東北と云つと、まさに自他共に認める「食料供給地域」である。しかし、これからは、食料を「供給」するのではなく、味、品質共に優れた東北の食料を、日本含め世界中に売り込む、そのような意識が必要なのである。

その東北の農業の実力について見てみよう。よく取り沙汰される「食料自給率」は、平成二年度の確定値で、全国平均四〇％に對して東北地方は一〇九％であり、新潟も一〇〇％

である。つまり、東北圏は「自給自足」でやっていけるのである。何と言つても食は生命活動の基本であり、それを圏域内でまかなえることの意味は大きい。もちろん、細かく見ていくと米や野菜、果物、魚介類は一〇〇％を超えている一方、小麦や肉類、牛乳・乳製品は自給率が低いなど、「得意分野」には偏りもあるが、それでも、いざとなれば自分たちだけで食べていける、ということの安心感は大きいように思う。

電力資源の可能性

東北と言えば、食料と同時に電力の供給地域でもあった。とりわけ今回の大震災で原発事故の深刻な被害を受けた福島は、原発以前から水力発電で首都圏に電力を供給してきた。福島にとつて電力産業は地域経済を支える大きな産業であつた。とりわけ今回の大震災で原発事故の深刻な被害を受けた福島は、原発以前から水力発電で首都圏に電力を供給してきた。福島にとつて電力産業は地域経済を支える大きな産業であつた。

たのである。そうした経緯の中に福島第一原発、第二原発の誘致もあった。東北のエネルギー資源を考えると、今後は敢えて危険な原発に手を出さずとも、電力を域内でまかなうことは可能となっていくに違いない。その期待が掛かるものの一つが、地熱発電である。火山国である日本は国土の小ささとは裏腹に、なんと世界第三位の地熱資源を有しているが、その中でも東北地方には有望な地域が数多くある。具体的には青森の八甲田地域、岩手・秋田の八幡平地域、岩手・宮城・秋田の栗駒地域、福島の磐梯地域などである。特に、磐梯地域には最大で、原発二基分にも相当するという地熱資源があると考えられる。

東北電力の原発は女川と東通の二箇所合わせて三二・七四万ワットを発電しているが、東北地方の地熱資源のポテンシャルは約五五〇万ワットである。もちろん、その全てを活用できるわけではないだろうが、これを有効活用しない手はない。

福島では他にメガソーラー計画や洋上風力発電所の計画も進行中で、こちらもその今後に大きな期待が持てる。

「黄金の国」復活も

東北と言えば、平安時代まで我が国唯一の産金地帯であり、そこで産出され

る黄金が奥州藤原氏の力の源の一つであつたことはよく知られている。奥州藤原氏初代の清衡が建立した総金箔貼りの金色堂はその象徴だが、清衡はまた、宋から「一切経」を購入するのに、砂金一〇五〇〇両を費やしたそうである。ちなみに一〇五〇〇両は約一七三〇kgに相当し、現在の金の価値（七月二十四日の相場は一グラム四二・七円）に換算すると約七三億円にもなる。

そうしたことから日本は「黄金の国ジパング」とされたわけであるが、一説には、奥州藤原氏が一〇〇年で費やした黄金の総量は二〇〇〇万両（二三三〇トン）だったとも言われる。もちろん、現在ではそのように大量の黄金を産出していないが、一方で昨今「都市鉱山」という言葉をよく耳にするようになった。廃棄された家電製品などの中に含まれる貴金属を含む希少金属（レアメタル）を鉱山に見立てた言葉であるが、なんと我が国の都市鉱山は世界有数の資源国に匹敵する規模になっているそうである。

その中で、金は約六八〇トンあつて世界の現有埋蔵量四二〇〇〇トンの実に約十六％にも相当するといふ。奥州藤原氏が一〇〇年で費やした量のなんと二〇倍以上もの金が、我が国には眠っているというのである。日本は今もまた

さに「黄金の国ジパング」なのである。こうした都市鉱山に眠っているレアメタルのリサイクルにおいて、国内はもとより世界の最先端を行く企業が東北にある。秋田県小坂町にある小坂製錬である。ここでは何と一九種類の貴金属を含むレアメタルを回収できるという。これだけの種類の金属を回収できるのは、小坂精錬を含めて世界中でわずか三箇所しかないそうである。この小坂製錬を含め、東北地方には七つの製錬所が立地し、銅・鉛・亜鉛等の輸入鉱石からの製錬と廃棄物等からの非鉄金属全般のリサイクル生産に関して、日本の三〇四割のシェアを持つている。東北はかつての奥州藤原氏時代と同じような「鉱業立国」も可能なのではないだろうか。

自ら持つものに 正当な評価を

東北人は他の地域よりも「謙譲の美德」において秀でているように思える。しかしそれはともすると、自ら持つ価値を過小評価してしまうことにもつながる。これまで見てきたように、東北の持つ実力は、欧州の一国にも勝るとも劣らないレベルのものであるが、それを正当に、等身大に評価することは、特に私たち東北人にとつて大いに必要だと思うのである。

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.



どこまでも続く秋田・大湯村の秋の田園風景

『独立サミット』を召集してみる

NHKのTVドラマ『テンペスト』の放送が終了してしばらくたったが、その印象はいまだ鮮烈である。沖縄出身の作家・池上永一原作。ペリーが来航して徳川幕府を揺るがす日本の激動期、存亡の危機に晒された独立国・琉球王国（言うまでもなく現在の沖縄県）の物語である。歴史劇のようで風土色豊かなファンタジックなシーンとユーモアに彩られた作風は戦後の沖縄を描いた名作『うんたまぎる』を思わせるが何より、性別を偽り行政官となつた才女・真鶴の、琉球独立にかける情熱とそのセリフに感動を覚える。最終回、ついに琉球王国は消滅、新



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル（ヴァイオリン）担当。

残念な事なのか、そう思っているのは一体誰なのか？

本誌の創刊者である砂越豊氏が近年沖縄本島のバスツアーに参加した際、まだ少女のようなバスガイドさんが突然、沖縄の独立について熱く語り始めたという。それ程に、沖縄の人々にとつては自然な考え方である事が推し測れるだろう。

独立、というと即「さつさと日本から出て行け」という声がネット上でもよくあがる。これは、「日本はひとつであるべきだ（はずだ）」と信じる、その概念を抛り所とする人々にとつて、そこから離れるという事が端的に言えば、「自分たちは否定された」「自分たちは敵視された」事を意味するのだと思う。いわば、「大国のプライド」と呼ぶべきものか。それと、地方の独立や、最近の反原発の動きに対して必ず言われるのが、「この動きの背後には、日本の分断・弱体化を目論む中国・朝鮮の存在がある」という事。日本がバラバラになる事で結局滅びてしまうという、至極正常な危機感もまた、そこにあるのだと思う。

私が沖縄の独立を支持するのは、私自身が現在住んでいる東北の六（七）県の新編成と独立自治を強く望んでいるからである。私がこのアイディアを持ったのはもう十三年程も前、二八歳ぐらいの頃だが、そのき

っかけは他ならぬ沖縄やアイヌ民族の存在を知った事であった。

しかし間違えてはいけないが、私は日本を否定している訳ではないし、敵視している訳でもない。東京も京都も、高知も熊本も好きだし、現地の友と今後も交流を深めたいと思っっている。問題は行政、特に中央政府であり、地域は地域の人々で決めて動かす仕組みを作るためにこれらと闘わねばならない。ついでに言うと、大和民族ではないのに「大和魂」と言われてもピンとこないのは、琉球民族もアイヌ民族ももちろんだろうが、私も「俺のは蝦夷魂（えみしだまし）*」だよな・・・」と思っ

てしまふ、というのもある笑）。民族概念はこれまた個人的なもので、自由に心に秘めて良いと思うのだが、このように沖縄人やアイヌ民族とは民族意識が異なるにもかかわらず、私は彼らに対し非常に親近感があり、同胞感すらある。同じ日本人でさえあればいいという訳ではない。別々の存在である事を認め合い、同じ目標を見ている事が大切なのである。

同じ目標、とは何か。

それが今回の、テーマである。以前私が沖縄に滞在していた頃、やはり沖縄の独立について語る地元の人（しまんちゅ*）がいて、私が

「東北にもかつて独立のために戦った時代があった」と話したら大層驚かれ、「ウソー！あんたヤマトの人（やまとんちゅ*）でしょ」と返された事がある。沖縄人も、アイヌも、独りで「大国」と闘っているつもりになつている。彼らにとつて、自分たち以外の列島人はひと括りに「大和民族」であり、基本全てが「大国のプライド」という虎の威を借りた狐であるかのような

ものだ、と。しかし、私は言いたい。あなた方は独りなどではないのだ、と。私が東北の独立自治を望む時も、決して東北単独の話だとは思わない。必ず、日本の他の各地方にも、同じようにしようと呼びかけ、いわば日本列島を半独立国の集まりとして再編成してしまおう、と考えるのだ。つまり、全ての地方を沖縄と同じようにしてしまえば、誰が「さつさと日本から出て行け」などと沖縄に対して言えるだろうか、という事だ。

その時、もはや「大国のプライド」などは存在せず、あるのは各々の住む地方への誇りと、そして全地方で日本という連合国家を作り上げようという同胞意識だけである。

そう、ここでの独立とは、決して孤立する事ではなく、自らの事を自ら決め、且つ日本という連合体の一員として意見し、支え支えられ、足りぬ所を補い合う

存在となる事なのだ。創刊号での私の記事を読んで下さった方はお察しかもしれないが、この考えは大英帝国におけるスコットランド、ウェールズの存在が大きなヒントとなつている。

ところが、私が以上のような事を書くまでもなく、世間ではとくに「大国のプライド」などというものピンと来なくなつてしまつているのではないか、とも思える。

ここまで私は所謂「道州制」という構想が存在する事を知りながら、一から考え直す形で書いているが、同じように、大阪都構想をはじめ、名古屋や神奈川、はたまた新潟までもが自治政府構想を掲げ、また一般の大勢の人々が、原子力発電所の再稼働に抗議するた

めに東京に集結し、十七万人もの動員となつたと伝わる。それもこれも皆、中央政府への不信、自分たち国民の声が無視され、重大な事柄を左右されていく事への危機感が頂点に來た事の証なのだと思う。

もはや、中央政府そして国は崩壊寸前と言つてもいい状態かも知れない。確かに中国やどこかが日本の混乱・分離を伺っている、という危機感もわかる。しかしだからと言って、多くの人々の叫びを無視していいはずはない。もつと理解し合い、且つ分離ではない、現状維持でない、変革の道を探らねばならないのでは

ないだろうか。

もしかすると、『テンペスト』というドラマは、作られるべくして作られた、今こそと日本全体に向けた、沖縄からのメッセージなのかも知れない。沖縄だけの問題ではなく、今やこの列島全体を覆う嵐（テンペスト*）の物語なのだ。

ここで、日本列島の私たちはどうすべきか。

甚だ僭越ながら、私はここに提言してみたい。「日本列島独立サミット」を召集せよ、と。

以下は、例題である。

*

ー今年も、サミットが開催されます。参加地域は次の通りです。

- ◎アイヌ自治州
- ◎北海道自治州
- ◎東北連合自治州
- ◎新潟自治州
- ◎東日本連合自治州
- ◎西日本連合自治州
- ◎隠岐自治州
- ◎沖縄連合自治州

（注：異論ある方多数と思われるが、ご容赦！）
今年の開催地は、我が東北連合、別名・奥羽連合の頭脳の拠点である、秋田市です。秋田は東北の歴史上、何度も独特の動きを見せ、古代には中央の軍隊に味方し同じ東北の豪族・安倍氏を敗北させ、中世には平泉を敗北させ、近世には奥羽越同盟を裏切

り、結果的に東北を繰り返して歴史のどん底に叩き落している。ところが反面、平泉藤原氏の仇討ちの軍を挙げたのも秋田の武將で、この軍隊は底知れぬ勢いで膨れ上がって源頼朝を驚愕させています。

また近年は独自の教育改革を行い全国随一の教育レベルを誇り、また「幸福の国」ブータンとの交流をも独自に開拓するなど、つまりは自ら考えて行動する、極めて自発的、進取的な風を秘めた土地柄なのです。首都・平泉、経済拠点・仙台とともに東北連合の牽引の要となる秋田市にて宜しく熱き議論を展開下さい。

*

さて、日本列島全八州各地より選出された各方面の専門家、市民の方合わせ約二十〜三十名ずつ、ここに集い、議論すべき問題は山積しておりますが、ここ東北連合内では既に決定し進められております原子力発電施設全廃計画について・・・州によつては、今後も原発を推進していく意向の所もあるようですが、州民の意思はどうなのか、そのあたりも議論を深めてまいりたいと思っております。

東北連合福島特別区の事故後原発では、技術者・業者の減少など問題が深刻化しており、東北連合でも独自に「原子力発電廃絶学」を推進して技術者を養成、

またロボット開発にも力を入れて東日本連合はじめ各州との協力関係を展開させていきたいと考えております。

また、新潟州では独自に周辺州との交流が進められていて、北部下越区と東北連合との副連携に発展しつつあり、非常に歓迎するところであります。

今回のサミットは糸魚川〜天竜川の線より東側での開催ですので、西側の皆様に先手を打って頂きたいと思ひます。では、沖縄連合代表の方、どうぞ・・・

というような具合。

秋田の件りは余計だったろうか・・・何分、浅学非才の素人考えである事を百も承知で、恥を晒す覚悟で妄想を披露致した次第。

この日本列島独立サミットはまた、やがて世界を舞台に広げていける可能性をも秘めていると思うのだが、それはまた様々な波乱を予感させながらも、意義深いものになっていくのではないかという期待をも感じさせるのである。

とりあえず私は、スコットランドやウェールズの属する英国、アイルランドとの東西合同独立サミットから、始めていきたいと思うのだが・・・おっと、その前に日本列島である。気が早い。

笑い仏 福島への行脚



上：「笑い仏」
下：「笑い仏 光背拡大写真」

●「笑い仏をみなで
福島にとどけよう」
プロジェクトとは？

「仏像を福島に届け
たい！」

皆の思いが共鳴し結実
したのがこのプロジェクト
です。鳥取県倉吉市在住の
仏師がつくられた仏像、「笑
い仏」が、日本各地の寺院
を行脚し、皆さんと縁を結
びながら福島を目指す。そ
の過程で、東日本大震災の
被害と闘う福島の方々の今
を伝えようというのが、こ
の企画の趣旨です。

◇ 倉吉を出発した笑い仏
とともに、福島の今を伝え
る写真を掲示します。テレ
ビではあまり伝えられなく
なった、除染作業や仮設住
宅などの様子を改めて展示
し、いまだ復興の道程の見
えない福島の実状について
皆で知り、被災地へ祈りを

捧げて頂きます。

●「笑い仏」との
ご縁

昨年十二月、私の妻と両
親で倉吉に旅行した際、一
人の仏師に出会いました。
それが山本竜門師でした。
彼は、自ら彫り上げた笑い
をたたえた福の神を町に提
供し、まちづくりに役立て
ていました。その一体であ
る布袋さんを見つけたとい
うわけです。

◇ そこから竜門さんとの
手紙の交換が始まります。
今年に入り彼から、「自分
の仏像を福島に贈りたいの
だが…」という相談を受け
ました。これがプロジェク
トの嚆矢となったのです。
この仏像は、三〇年以上も
前に作られ作業所に安置さ
れていました。円空仏のよ
うな微笑をたたえているこ
とから、「笑い仏」と呼ば
れています。正式には「が
れき後背仏」といいます。
仏像の後ろを飾る後背が

方々と縁を結んでもらい、
福島は今も知ってもらいな
がら、拝まれて少しづつ東
北へ向かってもらうのはど
うか。

◇

歴史を紐解けば、鎌倉
時代にも同じようなことを
行っただけでなく、彼がいま
重源です。彼は平家に焼か
れた東大寺大仏の復興のた
め、仏像を大八車に乗せて
全国を巡り、民衆と仏を結
縁させ、ついに東大寺再建
を成し遂げます。今回のプ
ロジェクトでも、一人でも
多くの方が「笑い仏」を拝
み浄財を提供して下さり、
同時に福島は今を知って
もらえればと考えています。

●福島と「笑い仏」

仏像とともに展示する福
島を伝える写真は、私の先
輩で福島に勤務している方
にお願いして用意してもら
いました。キャプション付
きの労作です。破壊された
建造物だけではなく、今も
除染作業が行われる公園や
仮設住宅など、日常生活に
も焦点を当てており、見る
人に切実な現状を分かっ
てもらえると思います。常
時二〇数枚の写真が、笑い
仏のそばに展示されています。

◇

そして二〇一一年三月
一日に、あの大震災が起
こりました。すぐに彼は、
「仏師として何かできない
か？」と考えます。そして
出した答えが、この「笑い
仏」を福島で苦しんでお
られる方々に贈るとい
うものでした。光背の「が
れき」には、今も「がれき」と闘
う方々へのエールも込め
られています。

◇

偶然の縁でその思いを受
けた私は、彼に一つの提案
をしました。ただ福島に仏
像を届けるだけではなく、
道中に各地のお寺を行脚し
てもらい、逗留して地元

片隅にずっと残っていたこ
とが、今回の企画を考える
礎にもなっています。

◇

●笑い仏の今

笑い仏が巡礼する寺院
時代にも同じようなことを
行っただけでなく、彼がいま
重源です。彼は平家に焼か
れた東大寺大仏の復興のた
め、仏像を大八車に乗せて
全国を巡り、民衆と仏を結
縁させ、ついに東大寺再建
を成し遂げます。今回のプ
ロジェクトでも、一人でも
多くの方が「笑い仏」を拝
み浄財を提供して下さり、
同時に福島は今を知って
もらえればと考えています。

◇

現時点で、決定してい
る道程は以下の通りです。
（寄稿時点—当新聞追記）
①兵庫県姫路市
円教寺（六月十七日—七
月十四日）

②兵庫県加古川市
鶴林寺（七月十五日—七
月二十五日）
③兵庫県神戸市
天上寺（七月二十六日—未
定）

◇

逗留地での模様は、『M
ONK フォーラム』のウ
ェブサイト（www.monk-forum.org）上の「笑い仏
ブログ」にて、ユーモラス
に紹介しています。ツイッ
ターであれば、「笑い仏」
をフォローして頂ければ、
更新状況も即座にわかる仕
組みになっております。

私自身もこの仏像をとき
どき拝みにいくのですが、
その前で熱心に頭を下げて
いる方々を見受けます。仏
像の前には自由に書いても
らえるノートを置いている
のですが、そこには「ガン
バレ福島」や「負けない
で」など、いろいろなエー

ルが残されています。外国
の方も母国語で自らの思い
をつづてくれています。ま
した。福島は今を伝える展
示を食い入るように見る方々
もいて、プロジェクトの趣
旨に共感して頂いているの
かと、嬉しくなります。

●今後の笑い仏

これから「笑い仏」は
福島を目指して、各地の寺
院に逗留しながら、ゆっく
りと東を目指します。率直
に言いますと、本年度中に
福島入りすることはないで
しょうし、いつ福島に到着
されるか、主催者である我々
にも見当が付きません。逗
留寺院として手を挙げてく
れるお寺が増えていますの
で、その縁を大事にしまが
ら、少しずつ、まさに「す
ごろく」のように行脚して
頂こうと思っています。作
者の竜門さんは、「なるよう

になる。落ち着くところに
落ち着きますよ」と言われ
ます。その言葉を信じて、
MONK フォーラムは微力
ながらも全力で見守ってい
きたいと考えております。

◇

この仏さんは、みなさ
まの思いを「がれき」とと
もに背負い、福島を目指
す過程で、様々なご縁に出
会うことでしょう。始まっ
たばかりのプロジェクトで
すが、すでに多くのご縁を
頂き、ご支援を受けていま
す。つまり、皆の思いがま
さに「動力」となって、こ
の笑い仏を福島に向かわせ
ている訳です。これこそが、
「笑い仏をみなで福島に届
ける」というテーマの全て
なのです。

◇

最後に、この行脚のため
の寄付を受け付けておりま
す。お心を頂いた方々には、

笑い仏から旅のはがきが届
きます。

◇

①ゆうちょ銀行：記号
14310 番号59497281
モンクフォーラム

②りそな銀行：泉北支店
普通口座 0258664
モンクフォーラム

ナガハタ カズヨ

◇

また、「笑い仏」に興味を
もたれた方、そして協力を
頂ける寺院さんは、このメ
ールアドレスまでご連絡下
さい。
info@monk-forum.org

◇

「笑い仏」が福島で闘う
かたの力になることを、心
から願ってやみません。

◇

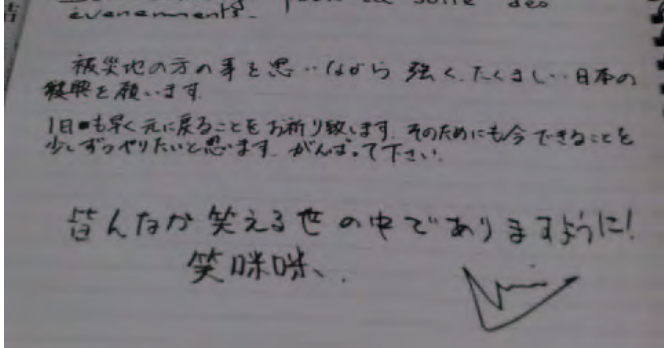
最後に、この行脚のため
の寄付を受け付けておりま
す。お心を頂いた方々には、



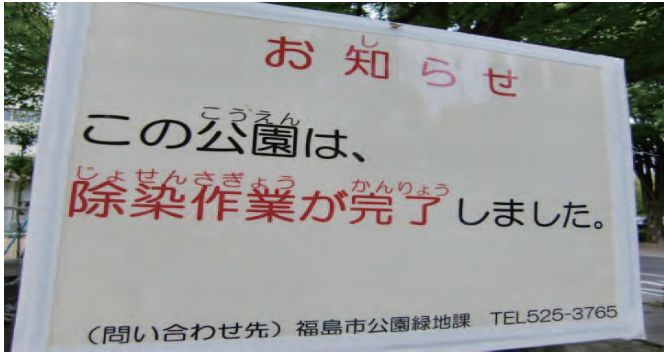
パネルと笑い仏



笑い仏が安置されている姫路・円教寺の食堂



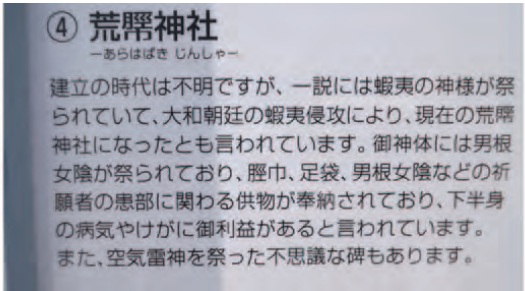
ノート



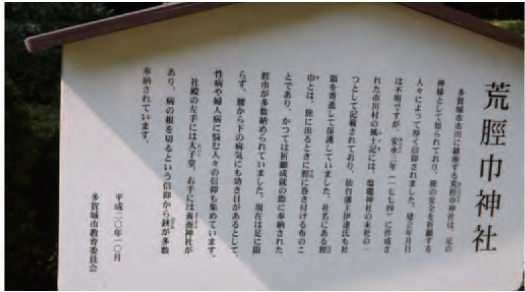
福島を伝える写真



荒脛巾神社鳥居



神社の由来 その①



神社の由来 その②



奉納された履き物



奉納された鉄類



聖徳太子、空気雷神などの碑

アラハバキ神の謎

荒脛巾神社を
訪ねて思う
(宮城・多賀城市)

現在でも国内に
一五〇社以上存在す
るアラハバキ神社

アラハバキ神という神には、さまざまな漢字名がある。ざっと挙げただけでも、荒覇吐、荒吐、荒羽、阿良波々岐、荒脛巾、荒掃除、新波々木、阿羅波婆枳、荒羽々気、阿羅波比、鹿脛バキとその数は多い。さらに、その起源は不明であり、古代日本に由来する民俗信仰の神のひとつともいわれる。しかし、この神を祀る神社は全国に約一五〇もあるとか、一説では、関東・東北だけでも六〇〇社を超

えるとも言われている。

またこの神の由来にはいまのところ定説がないようだ。従ってさまざまな解釈も存在する。いわく、縄文神の一種であるとの説、あるいは、蝦夷の神説、蛇神説、長脛彦を祀ることから足腰の神説、奈良・平安朝時代の宮城・多賀城を守るための賽の神説、製鉄の神説、物部氏や出雲族と関係が深いという説などである。果ては、青森で発掘された、あの有名な遮光器土偶がアラハバキの神であるとする説まである。しかし、この最後の説の根拠とされる『東日流外三郡誌（つがるそとさんぐんし）』そのものが偽書であるとする説が最近有力となっている模様である。

生き残ってきた

古代宗教

筆者はもともと神社というものが大和朝廷の侵略による支配の印であると考えている。被支配地には、大和朝廷の支配下に入る前の宗教があり、それが大和朝廷の神社にとって代わられたという考えを支持している。そうであれば、被支配者側の宗教は表舞台では排除される。しかし排除されたように見えても、そう簡単には自分たちの宗教を捨てることはない。形を変え、他の宗教や祭りや儀式の中に生き残っていくのは多く

の地域で散見されることである。

こうした各地の被支配者の変容した宗教が、この「アラハバキ神」という神の由来に投影されてきたために、さまざまな意味を帯びてきて、結果的にさまざまな解釈を許すことになったのではないかと思うのである。

被支配者の信仰であれば、大和朝廷が編纂したであろう記紀には出て来ないというのは当然である。逆に、そこが魅力でもある。小さい頃から、日本は無宗教との国で、葬式のときには仏教で、初詣は神社と使い分けて、宗教は形式だけと教え続けられてきた。が、そうした考え方もひとつとしたり違うのではないかと、もっと別の宗教も過去に存在していたのではないかと考えるのは刺激的である。古代宗教がそのまま現代に蘇生するとは思わないし、それがどのようなもの

であつたかは想像もできないが、少なくとも過去には生活とは切り離せない宗教があつたと思えるのは楽しい。

多賀城の荒脛巾神社 の由来の多様性

古代宗教に 突破口を見出す

この神社には、写真にあるように多くの履き物が奉納されている。また男根や女陰も奉納されているようだ。足や腰の神様、下半身の病を癒す神様、旅の安全を祈願する神様、道祖神などである。また、この神社は鹽竈神社の末社でもあり、仙台藩伊達氏が社領を与えて保護していたこともある。さらにここには、馬頭観音、四天王神、水神、風神、風雷神、雨雷神、火雷神、土金雷神、空気雷神、聖徳太子までの碑も存在する。

この神社の神様の役割と位置づけがここまで拡大すると収集がつかず、なかなか共通項が見つけない。時代とともにこの神社が担う役割が大きく変化してきたのだろうと思われる。

編集後記

ロンドンオリンピック観戦で寝不足の日々が続いている。日本選手団も頑張っているようだ。それでも個別に見れば、開催直前の予想よりも良かった競技、振るわなかった競技は当然出てくる。選手だけでなく、関係者をひっくるめて悲喜こももものことだろう。

選手もコーチもその他の関係者も、四年間はオリンピックに出場することを目指し、出場できなかったら、その四年間はもうなるのだろうか。出場できても、目標の成果を出せなかった場合、その四年間とオリンピックに参加している時間はもうなるのだろうか。極度にきびしく苦しいトレーニング漬けの日々をすべて良い思い出としてあきらめることなど出来るのだろうか。そんなことをふと考える。

だから、せめて良い成績を獲得したら、それまでの苦労以上の賞賛が必要なのだ。たとえ良い成績を獲得できなかった場合でも、賞賛とねぎらいが必要なのだ。さらに、オリンピックに出場できなかった多くの選手たちにも、賞賛とねぎらいの言葉を贈ろう。

もし日本国民サポーター全員がこうした姿勢に転換したら、もっと良い成績を取るかもしれないと思う。



『東北独立』 砂越豊 著
価格：1,260（税込み）

時間が経過すればするほど
『東北独立』という選択肢が
より現実的になってくる



河北新報広告掲載
2012.2.12
2012.3.13

あなたの著者制作、お手伝い致します！
電子新聞発行のお手伝いを致します！
お気軽にご相談ください。



『立ち上がれ、オジサン！』
砂越豊 著



『もうひとつの構造改革』
砂越豊 著

※電子新聞創刊特別値引

上記2冊ともに 1260 円⇒ 500 円（税込）

遊無有出版

検索